

2026年7月21日

厚生労働省
健康・生活衛生局感染症対策部
予防接種課
課長 前田 彰久 殿

高齢者の疾患特性を考慮した肺炎球菌ワクチン予防接種に関する意見書

一般社団法人日本老年医学会
理事長 神崎 恒一
感染対策・ワクチン小委員会委員長
山口 泰弘

近年、高齢者を対象として多くのワクチンが承認され、その一部について、予防接種法に基づく定期接種が開始されました。今後も、定期接種の対象とするワクチンの選定や、定期接種の対象年齢について、各ワクチンで詳細な検討がなされるものと思われます。

厚生科学審議会におかれましては、臨床研究に基づく各ワクチンの有効性と、各疾患に関わる直接的な Quality of life(QOL)の低下をもとにした ICER や急性期の治療費をもとにした費用対効果を詳細に解析いただいています。各ワクチンの臨床試験は、発症や入院（重症化）に対する予防効果をアウトカムとして実施されていますので、ファクトシートとして急性期の疾病負担のみを考慮する分析が確かに施策決定の基盤になると考えます。

しかし、市中肺炎に関する本邦での観察研究において、肺炎が治癒したのちも、病前と比較して 0.13 の QALY の低下が 1 年間持続しました¹⁾。これは、急性期の一過性の QALY の低下を大きく上回る疾病負担であります。また、海外の観察研究において、入院を要する市中肺炎後、セルフケアに障害が残る者が、非肺炎群より 2 割近く多いと報告されています²⁾。このような機能低下を起こした者では、再入院率が高いことも報告されており³⁾、介護や医療に関わるさらなる費用負担が発生しています。

急性疾患を契機に QOL や Activities of daily living (ADL) が低下し、しばしば長期に回復しないことは高齢者の重要な特性であり、肺炎のみならず、インフルエンザや COVID-19 においても確認されています^{4,5)}。持続する QOL 低下、ADL 低下に対するワクチンの予防効果を直接評価した研究はないものの、契機となる急性呼吸器感染症を予防することで、その多くを予防できると推定することは十分に妥当と考えます。

肺炎球菌性肺炎は、市中肺炎の 20.0%を占めると報告されています⁶⁾。近年承認された結合型肺炎球菌ワクチン（PCV20 あるいは PCV21）は、幅広い血清型をカバーし、かつ侵襲性肺炎球菌感染症のみならず菌血症を伴わない肺炎の予防にも有効であることが確認されています。高齢者において、これらのワクチンの QALY に対する効果や費用対効果は、従来の方法から推定される直接的な効果を大きく上回る可能性があることを、ワクチン施策の決定において是非ご考慮いただきたく意見申し上げます。

参考文献

- 1) Glick HA, et al. One-Year Quality of Life Post-Pneumonia Diagnosis in Japanese Adults. Clin Infect Dis. 73: 283-290, 2021.
- 2) Mangan MJ, et al. The impact of community-acquired pneumonia on the health-related quality-of-life in elderly. BMC Infect Dis. 17: 208, 2017.
- 3) Yamada K, et al. Activities of daily living limitation and functional decline during hospitalization predict 180-day readmission and mortality in older patients with pneumonia: A single-center, retrospective cohort study. Respir Med. 234:107830, 2024.
- 4) Andrew MK, et al. Persistent Functional Decline Following Hospitalization with Influenza or Acute Respiratory Illness. J Am Geriatr Soc. 69: 696-703, 2021.
- 5) Miyashita N, et al. Functional decline at 1 year in hospitalized elderly pneumonia with SARS-CoV-2 Omicron variant: Comparison with the ancestral strain and Alpha variant. Influenza Other Respir Viruses. 18: e13251, 2024.
- 6) Fujikura Y, et al. Aetiological agents of adult community-acquired pneumonia in Japan: systematic review and meta-analysis of published data. BMJ Open Respir Res. 2023 Sep;10(1):e001800.